

人権啓発講演会及び 第50回日野町人権・同和教育研究集会



【人権啓発講演会】

演題：「“支え合い”が介護を変える

～家族に頼れない時代をどう生きるか～

講師：^{かんべ}神戸 ^{たかこ}貴子さん

(看護師 / N.K.C ナーシングコアコーポレーション)

theme 1

“人権尊重のまちづくりをしよう” 人権啓発講演会・研究集会シンポジウム

12月3日、町文化センターで、人権啓発講演会及び第50回日野町人権・同和教育研究集会が開かれました。

講演会では、N.K.C ナーシングコアコーポレーション代表で看護師の神戸貴子さんが、「支え合い」が介護を変える「家族に頼れない時代をどう生きるか」と題し、講演を行いました。

神戸さんは、日本の介護の実態やヤングケアラーの問題について、次のように語りました。

ヤングケアラーとは、大人が担うような責任のある家族の世話をしている、自らの生活や学業、就業への影響を受けている若者のことを言います。このような若者は、友人との交流が減り、遅刻や不登校、進学や就業の悩みを抱えてしまします。家族のケアで子どもがなぜ悩むのか、神戸さんは「周囲に頼れる人がなく、孤立してしまうことが問題」だと言います。少子化や近所に頼れる親戚がないことなどが、さらに問題に拍車を

をかけているのです。

神戸さんは、こうした状況を変えるために、「ヤングケアラーLINE相談窓口」を運営しています。若者に身近なLINEを活用することで、孤立してしまうヤングケアラーの手助けとなります。

ヤングケアラーの子どもたちが希望するサポートとして、「信頼して見守ってくれ

る大人がいること」「困ったときに相談できる人がいること」と回答しています。相談窓口の存在がわからない、相談しても解決しように感じられない、それにより介護支援・社会保障の情報が得られず、深刻な悩みを家庭内に抱え込んでしまうことになりました。

14歳から16歳の間でヤングケアラー状態が継続していると、自傷行為や希死念慮を持つ気持ちが高まります。長期化しないため、早期の気づきと負担軽減が重要です。

神戸さんは「ヤングケアラーは各家庭の問題ではありません。地域経済や国力にも影響を及ぼす問題として、周

囲の大人たちは向き合う必要があります」と語ります。「介護の負担を地域で分散するよ

うな仕組みをつくることで、介護離職者やヤングケアラーが減ります。何気ないあいさつや立ち話ができる大人になること。若者たちに信頼される大人になりました」と、講演をしめくりました。

講演会の後は、「日野町人権・同和教育研究集会の50年の歩み」と題し、研究集会シンポジウムが行われました。

加持谷典範さん、森田勝彦さん、柴田孝志さんの3人が登壇し、これまでの同和教育、人権教育の考え方や取り組みが50年でのどのように変わってきたか、それに合わせ研究集会がどのように変わっていったのか、それぞれの立場で自分の活動や取り組みを報告しました。

50年にわたる活動の積み重ねにより、同和教育・人権教育の成果が表れ、町民の意識が変化してきていることが示されました。



▲健康ゲーム交流会（4年生）

また、高齢者疑似体験や車いす体験も行いました。聞こえない方を講師に招いて手話学習をしたり、認知症サポーター養成講座を受け、4～6年生で認知症の方の映画「オレンジ・ランプ」を観て、実際に認知症の方とワークショップを行うたりもしました。そのような活動の中で、誰もが暮らしやすい社会

6～9年生は、人権に関する作文に取り組みました。この作文をもとに、10

月には、各クラスで人権弁論発表を行い、感想や意見を出し合う中で、考えを深めました。この取り組みは、児童生徒自身の人権意識を高めるとともに、ほかの児童生徒が人権についてどんなことを考えているのかを知ることに、学級内の人間関係の質的向上を図る良い機会になりました。

また、6年生～9年生の各学年代表が「みんなが幸せに過ごせる社会へ」「普通とは何か」「この声で寄り添いたい」「少しの配慮が大きな救い」という題目で人権弁論を発表し、全校児童生徒で人権について考えを深めました。



▲生徒の意識を高めた人権弁論発表

【日野学園】

独自教科のはばたき科や道徳をはじめ、各教科での学びや行事、友達との関わりを通して、学校や学級の中で一人一人の存在や思いが尊重されるように取り組んでいます。

また、地域のさまざまな人との出会いや活動を通して、人権問題や生き方について考える取り組みを行っています。

●学力の向上

一人一人の児童生徒が主体的に学習に取り組むことで確かな学力を身に付けら

れるよう、授業改善と家庭学習の充実を図っています。特に、授業では自分の考えをもってしっかりと表現し、友達との関わり合いを通して考えを深めていく集団づくりを目指しています。

●はばたき科

4年生は、福祉について学習をしています。4年生全員が健康ゲーム指導士の資格を取り、地域の高齢者の方と交流会をしたり、日野学園でわすれんぼカフェや脳トレ体操を開催し、交流を図ったりしました。

5月には、下榎交流センターの飛田館長に「日野町の取り組み」についてお話を伺いました。11月には下榎交流センターにて解放文化祭の展示作品を見学したのち、人権センターの役割や背景について話し合いました。その他にも、戦争や命をテーマに多くのゲストティーチャーを招き、さまざまな角度から人権について学んでいます。

また、後期課程の生徒（7～9年生）は、全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会に応募しました。11月6日に行われた日野郡中学校総合文化祭では、学校代表の生徒が堂々と人権弁論発表を行いました。

11月17日に人権教育参観日を実施し、各学年で年間指導計画・各学年の実態に合わせた人権に関する学習を行いました。人権に関して子どもたちが学ぶ様子を保護者の皆さんに見ていただいたり、人権に関わる研修会を実施したりすることで、保護者の皆さんにも人権に対する理解を深める場になりました。